

道なかば 改革の現場から

町では、これまで各種団体へ交付してきた補助金について、平成24年度交付分から公募制に改めました。

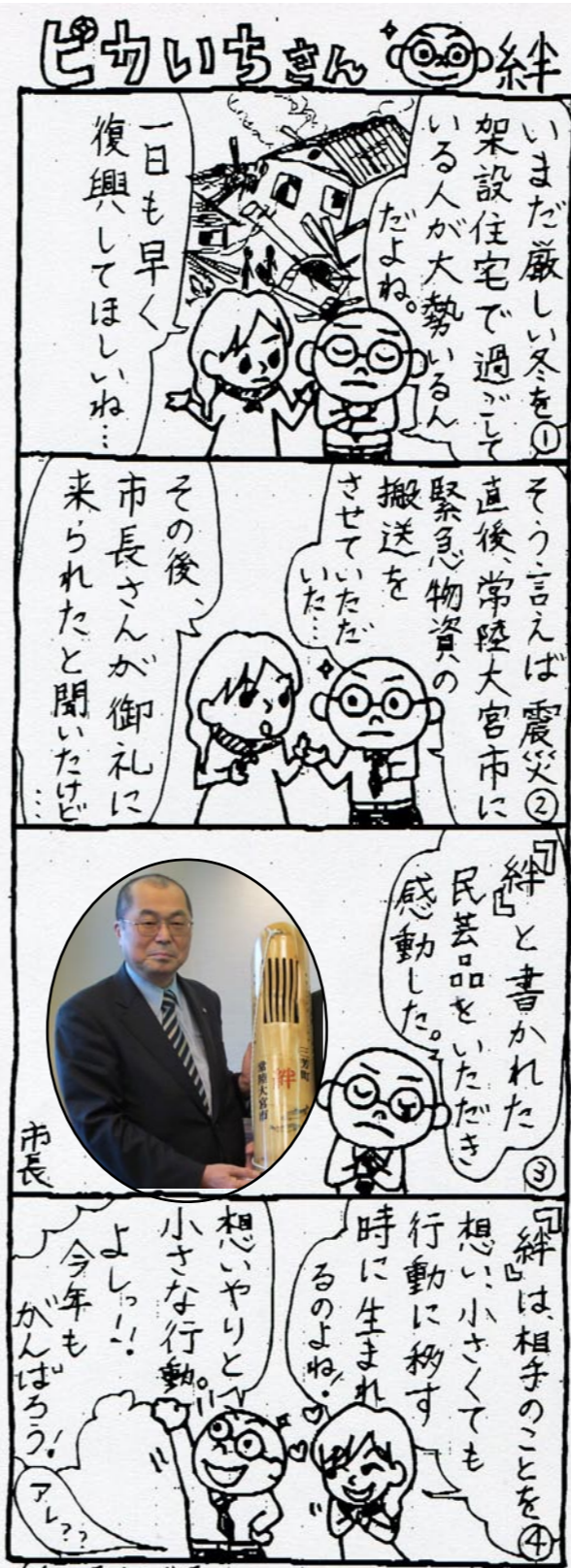
これは、新たな市民活動を支援するとともに、従来の制度では固定化される傾向にあった補助金について、すべての団体に改めて同じスタートラインに立っていただき、公正透明で適切な補助金を行いながら、より効果的にまちづくりを進めることを目的にするものです。

選考の方法と決定までの流れは、
①応募団体は、申請書類を沿えて申請
②第三者機関（三芳町補助金等検討委員会）による審査と提言書を町長に提出
③提言書で「交付すべきでない」とされた団体は、「公開ヒアリング」（協議の場）で、追加PRや補足説明
④提言書の内容とヒアリングの結果、今までの活動実績をあわせて町が検討し、採択・不採択を決定（最終的には議会の議決）
現在②まで進み、ヒアリング対象団体に通知を送付しました。初

めでの公募制ということもあり、広報やHP、担当課よりも説明はさせていたできていたが、説明不足は否めず、また、多くの団体に戸惑いや誤解もあったようです。
今回の公募制は、先進自治体の事例を参考に実施しましたが、審査基準等非常に厳しく、多くの課題も見えてきました。補助金等検討委員会からは、今後「三芳町方式」を構築することの提言もいただいています。
基本的には、当初の募集要項に基づき実施しますが、3年を目処に新しい補助金公募制への移行期ととらえています。

多面から公募制についてご意見をお聞きしていますが、多くの方々は主旨にはご理解を示してくださっています。また、これを機に団体のあり方を考え直し始めた団体もあります。
新しい制度の導入や改革の道は険しい。産みの苦しみと云っていいかもしれません。そして、改革を進めていく上で、何よりも大事なことは、多くの住民の皆さんの声をしっかりと聞き取ることだと考えます。今回の補助金公募制に關しても多くの皆さんから貴重なご意見をいただいています。ありがとうございます。

町政報告会開催
1月21日14時
コピスみよし



★林いさお後援会事務所
電話 049-259-2228
FAX 049-258-0968
〒354-0045
三芳町上富1003
林いさおオフィシャル
ウェブサイト
<http://www.isao.bz/>

ピカイち!!のまちづくり

林いさお通信



Together!
共に!!

No. 8 2

討議資料 1年を振り返り 林いさお後援会 平成24年新春号

この長い物語は、その日本史上類のない幸福な楽道家たちの物語である。(中略) 楽道家たちは、そのような時代人としての体質で、前をのみ見つめながら歩く。登って行く坂の上の青い天に、もし一だの白い雲が輝いているとすれば、そのれのみを見つめて坂を登って行くであろう。

〔坂の上の雲〕より

昨年、3月11日、東日本大震災が発生しました。多くの尊い命は奪われ、いまだ避難所生活を余儀なくされている方が多くいます。
福島県大熊町は、原発から20km圏内の警戒区域にあり、町民は会津若松などの仮設住宅に避難をされています。当町は、埼玉県市町村助け合い制度で、大熊町と復興支援



のパートナーとなっています。11月、会津若松市の仮設住宅で開かれた産業祭には「富の川越いも」を蒸かして提供させていただきました。
「もう、帰えっぺ。」
一人のお祖母ちゃんが、大熊町長に帰郷の思いを切々と訴えているのを隣で聞いていて胸が痛みました。今、仮設住宅では厳しい冬を迎えています。一日も早い復興を願ってやみません。
大河ドラマ『坂の上の雲』が年末終了しました。司馬遼太郎は好きな作家です。司馬は、当時の日本をこう述べています。
『至誠天に通ず』
「誠」とは、自分にとっても他人に対しても嘘偽りのない心。真心です。そして、「至誠」というのは、本気です。その気持ちはもって人生を生きていけば、必ず、その思いは天に通じ、物事は成就するといふ意味です。
今年一年、「至誠」をもって、坂の上の白い雲を見つめて坂を登っていきたいと思います。



「いまから思えばじつじつとけいなことに米と絹のほかに主要産業のないこの百姓国家の連中が、ヨーロッパ先進国とおなじ海軍をもとうとした。人口五千ほどの村が一流のプロ野球団を持つとうとするようなもの」と。
明治維新は、そもそもそうした近代国家を作り上げることに大きな目的がありました。